

平成22年を迎えて

サケネットワーク会員の皆様、明けましておめでとうございます。

新年を迎えても、あまり景気のいい話は聞こえてきませんが、このような時にこそ環境や自然に対する気配りが大切になるのではないのでしょうか。それが心を豊かにし、日々の生活に、また身の回りの自然に喜びを見いだすことにつながるように思います。

本ネットワークは、昨年来、サケと関わりのある幾つかの問題と関わっています。石狩川にサケを呼び戻す、存廃の危機にある豊平川サケ科学館を応援する、千歳川上流の自然を守る、といったことです。それぞれにたいへんな問題ではありますが、本ネットワークとしては、昨年を引き続き、本年も出来るだけの支援をしていきたいと考えています。この活動に、会員の皆様の御理解と熱い応援をお願いして、新年の挨拶とさせていただきますと存じます。

北海道サケネットワーク

代表 浦野明央
役員一同

石狩川花園えん堤問題

年明け早々にも開発局へ検討を要望

大雪と石狩の自然を守る会

水産総合研究センターさけますセンターによる、石狩川上流へのサケ稚魚放流試験が、大雪と石狩の自然を守る会などの協力のもとに、‘09年春から始まりました。この試験は、石狩川サケ資源の恒久的な保護策を目指して自然産卵群創生を試みるものです。しかし、この試験による回帰サケにとって、石狩川上流（深川市）のえん堤（花園えん堤）が大きな支障となる懸念が持たれております。このため、大雪と石狩の自然を守る会を中心に、これまでも現地調査や、開発局への要望を続けてきました。この概要については、本ニュースレター9、10号にも記載したとおりです。

この度、このような動きの中で、開発局は魚道の改善案をHPで発表しました。この計画の骨子は、従来の右岸魚道入り口をえん堤落ち口に向けること、また左岸にも同様の魚道を設置するというものです。

この計画について、10月15日に現地視察をお願いした弘前大学の東先生にご検討頂いたところ、改善の意図は伺えるものの、この種の魚道は、水深、流速などで効果が大きく左右されるので、実流量の実態把握と設計流量の適切な設定が大前提となる。更に、河川規模が大きいことに加え、時期的に流量の大幅な変動が想定されることから、このような「部分魚道」の機能には基本的に大きな疑問があり、また、設計内容にはその意図が不明確な点も多い、との見解を頂きました。

大雪と石狩の自然を守る会では、これらを参考に年明けの出来るだけ早い時期に、開発局に、改善案の疑問に対する解明を求め、更に、実効のあるえん堤改善への努力を求めることにしております。

事務局から

会員皆さんからの情報、ご意見、感想などお寄せください。